



今夏、中米ホヅジュラスで作ったダンス作品を仙台で再び上演！！

Midorigo 3/4

【日 時】 2010年11月14日 (日)

①14：30～ ②18：30～

(各回開場 30分前)

※各回終演後にお茶会をしますのでお時間のある方はぜひご参加ください。

【会 場】 せんだい演劇工房 10-BOX box-11

仙台市若林区卸町2-12-9 tel:022(782)7510
<http://www.bunka.city.sendai.jp/10box/index.html>

【入場料】 1000円 (小学生以下無料。泣き声大歓迎。)

千田 優太

出演者 渋谷 裕子

千葉 瑠依子 (即興パフォーマーダンス集団すんぷちよ)

スタッフ

音響：村上卓哉 (東北大学校友会 演劇部)

照明：西邑 太郎 (東北大学校友会 演劇部)

演出：千田 みかき (即興パフォーマーダンス集団すんぷちよ主宰)

～来年3月帰国予定～

【主 催】 即興パフォーマーダンス集団すんぷちよ

千田優太、千葉瑠依子、そして私の三人は2010年7月から9月の2カ月間、中米のホヅジュラスにいた。

現在、仕事でホヅジュラスに住んでいる在仙のダンスカンパニー“即興パフォーマーダンス集団すんぷちよ”の主宰として今回の作品の演出である千田みかきに「ホヅジュラスで公演しない？」と声をかけてもらい、私たち三人は仙台から飛んできた。

正直に言うとホヅジュラスで公演ができるとは思っていませんでした。命まで奪ってしまう強盗が多発することの街で、周囲にしわ寄せながら歩く私たちに公演をすることなど可能なのか？

それでも好奇心のままに足を動かして、歩き始めたばかりの子どものように突き進む。

課題は山にあった。

2ヶ月の間に気心の知れないメンバーと生活を共にし、作品を作る。

スペイン語しか通じないタクシーの運転手に行き先を告げて稽古場に行くことや所狭しと店内に置かれた服の横、しかも床に座り堂々と食事をしている店員を勝手に古着屋で衣装を採ること

日本語がまったく通じない国で公演場所を探し、現地の方々に宣伝をすること、などなど……

まったくわからないスペイン語でどこまでコミュニケーションが可能なのか。

期間内にすべてを進めることは難しいと思っていた。

だがしかし、頭を悩ます間もなく稽古は始まり着々と進んでいった。

滞在先が同じということ、ひとつの作品を作るということ、それぞれの思いが通じるとは私たちが同じ目的と目標を持っていた。

そして、「一人で歩いてはダメよ」という現地の人とみかきさんの達しから獲る以外常に一緒にいた。見えないロープでつながっているように常に一緒に歩いてきた。

そこには自分のペースだけで歩くことができないもどかしさも同時にいくつある。

稽古が終わって疲れて寝についても、みんないるから再び作品の話になる。

ビールを飲みながら寝ても稽古。泣くものもあれば怒るものもある。嫌な沈黙があれば、一言はみんなが笑うときもあった。

そうして私たちは無事にホヅジュラスの4カ所とニカラグアの2カ所で踊り、拍手をもらい現地のスタッフ・ダンサー、ミュージシャンと大勢のお客さんに囲まれていた。

帰国前、みかきさんに「この作品、仙台でもやってね。」と言われた。

正直に言うと仙台公演はできないと思っていた。

ホヅジュラスでの滞在時とは違い、仙台に帰ってきたらそれぞれの生活が始まりそれぞれの時間に埋もれて実現しないと思っていた。

だが、しかし私たちは踊るために再び集まった。

あの感動を味わったもの同士、今度は仙台で踊ってみようと思う。

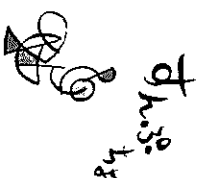
(文 渋谷裕子)

■ご予約・お問い合わせ

即興パフォーマーダンス集団すんぷちよ

tel: 090 (7527) 3246 (千葉)

E-mail: sunpdayo@gmail.com



みどりこ ※線原(斐見)：「新舞のような子」の意から。古くは「みどりこ」。生まれたばかりの子ども。赤ん坊。また3歳くらいまでの幼児。